

広島城北中学校

入試科目		算数	国語	理科	社会	総合
試験時間		50分	50分	40分	40分	－
配点		125点	125点	100点	100点	450点
受験者平均点		85.2点	91.8点	62.7点	70.8点	310.5点
合格の目安	得点	65点	70点	45点	50点	230点※
	(%)	52.0%	56.0%	45.0%	50.0%	51.1%
昨年度との比較		易化	易化	やや易化	横ばい	易化

※当社予想

算 数

1	計算と一行問題 （1）①小数の計算 ②分数の計算 （2）逆算 （3）平均 （4）つるかめ算 （5）公倍数の個数 （6）速さ （7）面積 （8）買い物の値段 （9）仕事算					
2	場合の数－計画表の作成	小問数：2				
3	容器と水量	小問数：4				
4	折り紙の切り取り	小問数：2				

大問数や難易度、出題単元、例年とほぼ同様の構成です。

1(1)計算、(2)逆算、(3)平均、(4)つるかめ算、(5)公倍数、(6)速さ、(7)弓形の面積、(8)安くなる買い物の仕方、(9)仕事算のよい問題構成になっています。例年通り、基本問題が中心の基礎力の定着が判断できる構成になっています。難しい問題はありませんので、計算ミスに注意して、時間をかけてでも確実に正解することを心がけましょう。

2は計画表を作成する問題です。(1)は科目と場所の組み合わせを考える問題です。(2)は必ず決まるところを埋めて、その後条件に合う表を手探りで作成していきながら、矛盾が生じたらやり直すということを繰り返し正解にたどり着いていく問題です。難易度的にはとりたて高くありませんが、ここで時間を費やしてしまった受験生は多かったのではないのでしょうか。

③は容器と水量の問題です。仕切板があって、片方にはおもりが置いてあり、片方の水面の高さがグラフに表されているという典型的な問題なので戸惑いはなかったと思います。まずグラフのどこを読み取るかがポイントです。そこを間違えなければ問題はなかったはずです。レベル的には基本問題に分類されるでしょう。

④は平面図形の問題ですが、城北中学校にしては珍しく、相似を扱っていません。今年度は、紙を折り曲げて、切ってもとに戻した形を考える問題です。(1)は切ったあと、折った紙をもとに戻していけばいいだけなので、ほとんどの受験生は正解できたはずです。(2)も原理は

同じですが折った回数が4回なので少しややこしかったかもしれませんが。ただ問題文の図を16分割した左上角の部分を注目することがわかった受験生は正解できたはずです。

今年度の広島城北中学校の入試も基礎力を問う小問集合と、読解力、思考力を問う大問とバランスよく出題されています。数年前までよく出ていた時間がかかる大問も近年なくなっていますので、まずは基本問題をミスなく正確に解くことが重要になります。基本標準レベルの問題演習で基礎力を養い、過去問演習等の総合演習で正確な解答力、特に整理して考える力を養っておくことが大切です。

国 語

一	今北純一	『自分力を高める』(説明文 約2400字 小問数23問	うち記述1問)
二	佐川光晴	『四本のラケット』(物語文 約2900字 小問数17問	うち記述2問)

今年も例年通り、説明文と物語文の大問各1題の構成で、基礎から標準レベルの良質な問題ばかりが出題されています。

本文全体の文字数は昨年約5900字から、今年約5300字と微減しました。記述問題も減少し、昨年は、説明文で3問(25・字数指定なし[解答欄から20字程度]・40字)、物語文で3問(5・25・60字)の合計6問でしたが、今年度は説明文で1問(60字)、物語文で2問(30・40字)でした。しかし、1問の文字数は多めということもあり、合計の文字数には大きな違いはありませんでした。また、記述問題を除く小問数の合計を見ると、昨年は38で今年は40とこちらも大きな変動はありません。これらを踏まえて考えると、全体的な分量としては大きな変化はなかったと言えるでしょう。形式的には去年よりも一昨年の出題形式に近い形でした。それでは、大問ごとに設問内容を見ていきます。

一説明文の読解問題です。国際ビジネスの現場で活躍されている今北純一さんが、自らの「人前で発言をする」体験をもとに「人前で恥をかく経験の必要性」を述べています。著書のタイトルから考えると、このような経験も、自分力を高めることに繋がっていくのでしょうか。

設問内容は、問一は漢字の読み書きで、基本的な漢字が出題されています。「実績」「弟子」等、間違えやすい漢字も混じっています。問二は接続語の記号選択問題で、空欄の直前、直後の内容から考えます。説明文の読解には必須の知識です。問三は基本的な語彙力を問う選択問題です。問四は傍線部の理由を問う選択問題ですが、答えを導く部分が、傍線部よりも後ろにあるので、傍線部の前後だけを見て…ということはいけません。問五は空欄補充の問題です。空欄の前後をしっかりと読めば、解けたと思います。問六と問七は内容に関する抜き出し問題です。問六は傍線部を含む流れを表す部分と、直前の体験談を照らし合わせ正解を

導く問題です。問七は聞かれている内容を追いかけて読み進めていけば、たどり着けたと思います。問八は指示語の内容を問う選択問題で、問九は言い換えを探す書き抜き問題です。両方とも説明文の基本的な読解力を問う問題です。問十は文字数の多い記述問題です。筆者の意見の理由を問う問題でしたが、本文の一部分を探してまとめるタイプではなく、本文全体を踏まえてまとめるタイプでしたので、どこをまとめるか悩んだ受験生も多かったと思います。要約力が問われます。

□物語文の読解問題です。中学生の太二はテニス部に所属しています。コートを整備するのは太二たちの役割で、「グーパーじゃんけん」で人数が少ない方の部員がその仕事をすると決めていました。ある日、部員のひとりをわなにはめ、ひとりでコート整備をさせることに……。問題文として扱われているのは、その次の日に学校で起きた出来事の場合です。少年達の罪悪感、苦悩から始まり、問題の解決によって一体感に変わっていく過程が描かれています。

設問内容は、問一は漢字の書き取りで基本的な漢字が並びました。問二は心情の記述。記述問題ではありますが、傍線部の前をしっかりと読

み取れば、比較的簡単に書けたと思います。問三が心情の選択問題です。傍線部の直前の「もしかして～」の部分に太二の想像が描かれています。問四は傍線部の内容を問う記述問題で、一文前にある「そう結論したのは～」を手がかりとして考える、指示語の問題になります。問五は内容について問う選択問題です。問六は同意の表現の書き抜き問題です。「同じポーズ」は手の形から想像しやすいと思います。問七は語彙の選択問題です。説明文でも物語文でも語彙が問われています。問八は心情の理由を問う選択問題です。本文にはこの設問の根拠となる記述は明確にはないので、本文全体を通して、今後どうなっていくかを推測します。

物語文で使用された「四本のラケット」は2017年度に中学入試で多く出題された作品です。昔の作品だから出題されないというわけではありませので、鯉城学院編集・作成の「中学入試国語出典読書案内」を参考にして頂き、説明文は、岩波ジュニア新書・ちくまプリマー新書などの中高生向けの新書レベルで筆者の論理展開を理解することを意識しながら、また物語文では、登場人物の心情を丁寧に読み取ることを意識しながら、しっかりと読解練習をしましょう。

理 科

- | | |
|---|--|
| 1 | 生物分野から、アシナガバチの生態 に関する問題（小問11） |
| 2 | 化学分野から、プラスチック容器を使った実験とプラスチックのリサイクル に関する問題（小問9） |
| 3 | 物理分野から、手回し発電機と回路に流れる電流の実験 に関する問題（小問7） |
| 4 | 地学分野から、積乱雲の高さを求める天気の問題 に関する問題（小問7） |

例年通り、今年も生物・化学・物理・地学の4分野からそれぞれ1題ずつの大問4題の構成で、バランスよく出題されています。同校の大きな傾向と言える事は、特に記述問題において単に理科の知識を問う問題ではなく、問題文における条件や結果、考察状況など様々な観点で

読み取らないと、問題が解けないようなものが多く出題されています。

1 アシナガバチの生態に関する問題で、普段よく耳にする「ハチ」からの出題ですが、大人でも具体的に生態を知っている人は少ないアシナガバチに、戸惑った受験生もいたと思います。ただ知らなくても、文章

をきちんと読み込めれば得点できます。問2のハチの数（親・子・孫の数）を推測、問3の益虫の行動を考える、問5のスズメバチがなぜアシナガバチをおそうのかを考えるなど、色々な観点からの問題がありました。特に受験理科の知識はいらず、問題文の読解力が必要になる良問に仕上がっています。

② 身近で使われているプラスチックを題材とした出題で、受験理科の知識（プラスチックの性質など）を使って解く問題もあれば、長い文章を読み込んで解く問題もありました。特に問6では、最近問題となっている海洋プラスチック問題が出ました。ただ、25字以内という字数制限で説明するとなると、少し書きづらかったかもしれません。また、問8は計算問題で、問題の条件に従ってきちんと計算すれば、正解できたでしょう。

③ 手回し発電機を題材とした出題で、電気の問題で頻出な電熱線、豆電球や発光ダイオード、そしてコンデンサーもありました。それぞれ受験理科の知識を駆使し、なおかつ実験の問題文をよく読み込んで問題を解いていく必要がありました。問1～問4では、基本問題なので間違っただけではいけない問題です。やはり、出来不出来に差がついたのが問5～問7だったと思います。電気が豆電球に流れると、光ると同時に熱を出している事に注意が必要です。これは、豆電球に限った事ではありません。

ん。導線からも熱は発生します。なので、ここでの失点は多かったのではないのでしょうか。

④ 同校から実際に撮った写真（雲の写真）や地形図や雨雲レーダーを題材として、様々な角度から天気に関する問題を出題していました。問1～問3では、基本問題が中心で、確実に得点を取りたい問題です。問4では、①は縮尺に関するものだったので特に問題なかったでしょう。②は積乱雲の雲頂の高さを計算して求めるのですが、頻出の三角形の相似を使わないタイプの解法となり、正解にたどり着いた受験生がどれだけいたか気になります。問5では、単位を変換して計算に持ち込む必要がありました。この問題に限らず理科では、ただ与えられた数字をそのまま計算していくのではなく、答えを求めるのに適切な単位を考えて、計算していく事が重要だと言えます。

同校の入試問題は受験理科の力だけでなく、問題解決能力を試すような問題もあります。重要な事として、問題文の中にある解答に必要な情報をどれだけ正確に読み取る事ができるかだと思います。また記述問題や考えさせる問題も多く、試験時間が40分しかないので、1間に長い時間をかけるのではなく、自分が解けそうな問題や見慣れた問題から着実に解いていくようにしましょう。

社 会

- ① 《地理》 広島県とその関わりのある事柄についての問題 (11 問)
- ② 《歴史》 日本の世界遺産と関わりある事柄についての問題 (11 問)
- ③ 《歴史》 日本の歴史についての総合問題 (13 問)
- ④ 《公民》 政治に関する総合問題 (10問)

一昨年前より、思考力を試す文章記述問題が増えてきた同校の入試問

題ですが、今年度もその傾向は変わりません。問題数は昨年度 47 問に対

して45問と同程度。難易度も昨年度とほぼ変わらないものでした。思考力を問う問題が増える前は平均点が5割から6割だったことを考えると、取り組みやすくなっている傾向が続いています。

①は広島県をテーマにした調べ学習についての資料を用いて、関連のある日本地理について問う問題でした。内容自体は基本的なものです。問1のように資料から読み取ったことをきちんと言葉で説明できるかが問われる問題もありました。頭の中でわかることと、それを言葉で説明することは同じではありません。国語的な力になりますが、文章記述問題が増えてきている以上、不可欠な力と言わざるを得ません。その他に出題のあった記述問題は、砂防ダムやムスリムについて問うもので、砂防ダムについてはよく出題されており、ムスリムについてもヒントが添えられているため、取り組みやすかったのではないかと思います。

②は日本の世界遺産と関わりのある事柄についての問題でした。11問中9問は基本的な知識を問う問題だったので、解きやすかったのではないかと思います。残り2問は文章記述問題で、思考力を問う問題でした。一つは「書院造の部屋では、どのようなことをして客をもてなしたか」を問う問題。もう一つは「潜伏キリシタンが、キリシタンであることをかくさなければならなかった理由」を問う問題。どちらも、単純な語句の暗記ではなく、社会の学習における「なぜ？」を大切に、興味を持って学習することを求めたものです。解答自体はそれほど難しくありませんが、常に興味をもって取り組むことが求められているといえます。

③も引き続き歴史の問題でした。語句、出来事が起こった順序、グラフの読み取りなど、問い方は様々でしたが、そのほとんどが基本的なことを問う問題でした。問4のグラフの読み取りは、輸入の割合の増減と輸入額の増減は必ず比例するわけではないことを確認するものがあり、入試では頻出の問題です。問2のみ、『学問のすすめ』の資料を読んで、これによって国民の考えがどのように変わったかを答えさせる記述問題でした。解答欄にあうように答えるため、0からの記述ではありませんが、資料の文章を読み取る力と社会の知識の両方がためされています。このような問題が、どこの学校でも出題されるようになりました。

④は政治に関する総合問題でした。紙幣が一新されるという新聞記事をもとに、基本的な語句が問われていました。受験生にとっては「やっぱり出た」という安心感のある問題だったかもしれません。ノーベル賞受賞者についての問題も、時事問題としては予想しやすいものだったと思います。小笠原諸島返還が何年かという問題も、50周年記念というヒントがあったので、年代がわからなくても計算すれば答えは出たでしょう。

出題されている文章記述問題は、答えが一つではないというものはほとんどありません。基本的な知識の理解で、十分得点は可能です。基礎を大切に学習を心がけましょう。